

歯周内科治療症例集 3 症例		症例番号	2
初診年月日	2006年 12月 27日		
患者 (イニシャル可)	NT 52 歳 男性		
主 訴	右上の虫歯 検診希望		
現病歴	昨日右上の犬歯に穴が開いて気になる		
既往歴	3年前に大腸がんの手術		
特記事項	なし		
口腔内所見	上顎前歯部に歯肉の腫脹がみられる		
位相差顕微鏡 検査所見	術前 カンジダ様像 スピロヘータ 線状菌 が確認された。 動きも活発であった。	投薬後 カンジダの減少 スピロヘータの消失が 確認された。 理想的な菌叢の確認	メンテナンス時 カンジダが若干観察される ものの概ね良好な経過を 示している。
レントゲン所見	修復物多い 欠損部位にBrの装着を認める		
原因的事項および修飾的因子	多くの修復物、ブラッシングの不足による全顎の歯肉の腫脹が見られる。		
診断名	右上犬歯pulおよび慢性歯周病、下顎前歯部のP急発		
歯周内科治療方法	AZMおよびペリオバスターによる2剤併用類似療法		
治療経過 (箇条書き)	<p>2006年12月27日 初診。パノラマX線写真撮影。右上犬歯の抜髄処置。その後暫くはカリエス処置。</p> <p>2007年3月3日 カリエスの症状が安定したため、本人同意の上位相差顕微鏡検査を行う。P急発診断により、AZM(アジスロマイシン)処方。同時にカンジダに対して歯磨き指導(ペリオバスター使用)。(症例2口腔内写真、位相差顕微鏡検査、歯周精密検査結果参照)</p> <p>2007年3月24日 位相差顕微鏡検査、スケーリング開始。(位相差顕微鏡検査結果、歯周精密検査参照)</p> <p>4月21日 右上犬歯の補綴処置。</p> <p>6月16日 右上犬歯の補綴処置終了。</p> <p>6月30日 スケーリング</p> <p>7月21日 前歯部カリエスに対し、CR処置。</p> <p>11月10日 スケーリング</p> <p>2008年2月16日 スケーリング</p> <p>3月1日 右上第二小臼歯唇側カリエスに対し、CR処置</p> <p>6月7日 スケーリング</p> <p>以後3ヶ月に一回の保険によるスケーリングを行った。 2009年12月12日現在の口腔内写真、パノラマX線写真、歯周精密検査結果、位相差顕微鏡検査結果参照)</p>		
まとめと今後の対応	<p>もともとカリエス処置のみの希望の患者である。主訴を治療しながら位相差顕微鏡で菌叢確認し、2剤併用類似療法を行った。治療効果は明らかであるとともに、患者のモチベーションもあがり、その後の定期健診にも欠かさず来院している。位相差顕微鏡検査が患者のモチベーションアップにも大きな役割があることを実感した症例であった。</p>		